

(学校番号020) 令和4年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【大谷場東小学校】

① 4月28日		
目標・策		
知識・技能	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・技能」において1pt向上させる。 R4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「知識・技能」において全国平均を上回る。	⇒ 「ドリルパーク」等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。その際、児童の学習履歴を確認し、学期に2度、個別に学習計画を立てる時間を設定する。
思考・判断・表現	R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。 R4年度全国学力・学習状況調査の国語・算数・理科の「思考・判断・表現」において全国平均を上回る。	⇒ 児童が作品等に取り組む際、teamsの課題機能を活用する。その際、評価の観点を示し、児童が思考したプロセスにコメントを付記して、評価する。また、プレゼン力の向上のために、声の抑揚や話すスピード、間の取り方など基本的なスキルを発達段階に応じて行うため、学年で統一を図る。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 全ての授業において、児童とともに課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

③ 9月2日		
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能	算数において、結果は全国平均を上回っているが、算数の用語を整理し、さらに定着するために、繰り返し問題に取り組ませる。	⇒ 「スタディーサプリ」などを活用し、繰り返し問題に取り組むことで、算数用語の定着と基礎学力を確実に身に付ける指導を行う。
思考・判断・表現	国語において、結果は全国平均を上回っているが、人物像や物語の全体像を具体的に想像させる力を付ける。	⇒ 授業の作品に関連した、並行読書に取り組み、想像したことをICTを活用して共有する。
主体的に学習に取り組む態度	話し合い活動をより充実させるため、ICTを活用して、友達のよさに気づき、さらに自分の考えを深めたり、広げたりできるようにする。	⇒ 友達のよさに気付くように、オクリンクやムーブノートを活用し話し合い活動の充実を図る。

② 8月31日	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
R4年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、国語-5pt、算数-6ptであった。算数では、二つの数の最小公倍数を求める問題に課題があり、4pt全国平均を下回った。算数で使用する用語を整理して習得する必要がある。	
R4年度全国学力・学習状況調査「思考・判断・表現」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果と比較し、国語-3pt、算数-7ptであった。全教科において、全国平均を上回っているが、国語の人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題に課題がある。	
R4年度全国学力・学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は95%であった。「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は88%で同じ話し合いでも6ptの差がある。今後は、考えを深め広げるなかで、お互いのよさを認め合えるよう授業改善に努める。	

④ 2月28日			
さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	市平均に対し、国語+4pt、算数+6ptという調査結果が得られた。国語では、我が国の言語文化に関する事項は、87%を超える正答率に対して、話すこと・聞くことさらに読むことについては、50%代の正答率とかなりの差があることが分かる。算数では、測定の領域は、8割近い正答率に対し、その他の領域はいずれも、6割代となっている。	小4	市平均に対し、国語は、+3ptであったが、算数は、+0.7ptという結果となった。国語では、話すこと・聞くことの領域が正答率8割に対し、読むことの領域の正答率が4割台であった。算数は、全体を通して6割代の正答率となった。
小5	市平均に対し、国語+10pt、算数+8pt、理科+8pt、社会+6ptと全体的に高い結果が得られた。国語では、情報の扱いに関する事項の正答率が、8割を超える結果となったことに対し、理科の「エネルギー・生命・地球」を柱とする領域の正答率が5割代であった。	小6	市平均に対し、国語+3pt、算数+2pt、社会+5pt、理科-0.7ptという結果になった。社会科の地理的環境・現代社会の仕組みや働きと人々の生活では、正答率が8割を超えるのに対し、理科の「地球」を柱とする領域では、正答率が5割に満たない結果となった。

⑤ 2月28日		
成果指標に対する達成状況	評価(※)	
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査「知識・技能」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校結果と比較し、国語-5pt、算数-6ptであったが、全国平均に対しては、国語+7pt、算数+4pt上回る結果となった。	A
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査「思考・判断・表現」において、R3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果と比較し、国語-3pt、算数-7ptであったが、全国平均に対しては、国語+9pt、算数+6pt上回る結果となった。	A
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が、91%であった。R4年度全国学力・学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は95%であった。	A

⑥ 3月2日	
次年度への課題と改善策	
知識・技能	引き続き「スタディーサプリ」や「ドリルパーク」などを活用し、繰り返し問題に取り組むことで、算数用語の定着と基礎学力を確実に身に付ける指導を行う。
思考・判断・表現	国語の人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題に課題があるため、読む活動などを通して具体的に想像する時間を意図的につくる。また、読書の習慣を身に付けさせるため、多くの本と触れ合う時間を設ける。
主体的に学習に取り組む態度	「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法をきめていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合をさらに増やすため、自分の考えを深め広げ、お互いのよさを認め合えるような学級活動を実践していく。

※評価

- A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)